

購読申込書

民主文学購読費
月額 970円送料込み

月 日

いずれかに○印を
つけてください

一月号より定期購読する
胸壁を越えて、連載中のみ購読する

ご住所 〒 _____
電話番号 _____

日本民主主義文学会 JMSL (Japan Modern Socialist Literature Society)

お名前 _____

★左の用紙を切り取って、FAXあるいは郵で申し込ください。雑誌は〒170-0005にお送りします。

いちばん身近な文芸誌

民主文学 1

毎月8日発売

月号より **新連載スタート**

編集・発売 **日本民主主義文学会**

TEL 03-5940-6335 FAX 03-5940-6339

〒170-0005 東京都豊島区南大塚2-29-9 サンレックス202号



誰も壁を乗り越えることなしには進めない



原 健一氏

原 健一
(はら・けんいち)
1946年長野県生まれ。
1970年信州大人文学部卒。
著書：『わが村は美しく』
『葉山嘉樹への旅』(かもがわ出版) 他

筆者のことば

誰もが胸に秘めている課題があり、その壁を乗り越えることなしには、次の世界に進んで行けない—そんな思いを含めての連載小説になります。

2010年は韓国併合100年にあたり、ソウルはどんな状態であったか等、韓国で生活した私の体験を生かし、現在の韓国を旅する場面も多く取り入れることで作品世界を構築した—前作「草の根の通信使」の世界を引き継ぎつつ、難しくなっている日本と韓国との関係や、さらに北朝鮮の今日をどう理解するかについて深めています。

東北アジアの平和という課題も、実に身近なところから取り組まなくてはならないことを読者の皆さんと共感しながら連載を進めるつもりです。

■この機会に、『民主文学』をぜひ購読ください■

私立高校を早期退職した梶井昌三は、児童センターに館長として勤務していた。その梶井に、韓国の大学で日本語講師をしている従弟の吉江洋生から韓国旅行の誘いがくる。梶井は、学生時代、北朝鮮系の学生と交流し、その帰国事業に協力したことがあった。その北朝鮮の評価をめぐって韓国の友人、崔承日と気まずい関係になっていた……
国際情勢の変化も背景に、日本と朝鮮半島の歴史に分け入りながら、民族の相克の中で日本人としてどう生きるかを問うていきます。

『民主文学』に二〇一一年に一年間にわたって連載された「草の根の通信使」の作品世界を、新たな視点から描く新連載小説にご期待ください。

●原 健一の魅力の新連載小説●

胸壁を越えて

■ ■ 難しくなっている日韓関係、そして今日の北朝鮮をどうとらえるか ■ ■